

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇PVC Design Award 2014 開催

—I want this！（これ欲しい！）—

PVC Design Award 事務局

## ■随想

◇モザンビーク共和国旅行記（7）—教育—

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

## ■編集後記

## ■トピックス

◇PVC Design Award 2014 開催

—I want this！（これ欲しい！）—

PVC Design Award 事務局

「I want this！」（これ欲しい！）をテーマに、今年も「PVC Design Award 2014」を開催します。一目見て欲しい、贈って嬉しい、貰って嬉しい、誰もが欲しがらうような作品をソフトPVCの特性を活かして作り上げたいというのが今回のアワードのコンセプトです。

新たな価値をつくり出すデザインとそれを実現させる確かな技術が合致してできる実用的でかつ独創的な製品は、ひと目見て「I want this！（これほしい！）」と思うに違いありません。ソフトPVCという素材に価値を見出し、国内はもちろん世界の人たちの購買意欲をかきたて、ビジネスに直結する商品価値の高いデザイン提案・製品を期待しています。



今回も、経済産業省、公益法人日本インダストリアルデザイナー協会の後援をいただき、ソフトPVCの関連団体が主催し、5月から開催します。デザイン提案は5月1日、製品応募は7月1日からスタートして各3ヵ月間募集し、10月中旬に最終審査を行い、大賞1点、優秀賞3点、入賞（大賞・優秀賞以外で一次審査通過したもの）を選び、それぞれに副賞100万円、10万円、2万円を贈呈します。

このアワードの最大の特徴は、主催団体がソフトPVCの原料・素材から加工（製造）、卸の組合（流通）企業、約300社のサプライチェーンでつながっているところにあります。一次審査を通過したデザイン提案においては、ソフトPVC加工会社の卓越した技術を得ながら無償で試作品をつくり最終審査に臨みます。そして新たなビジネスとして価値ある提案には積極的なビジネスサポート・商品化に向けたマッチングを行います。私たちはこの賞を通して日本の製造業とデザインの力が世界に発信されることを願っています。

今年も、東京、名古屋、大阪、福岡地区で、昨年同様デザイナー向けのセミナーを4月から6月に開催します。昨年は透明性の高いソフトPVCを主体に紹介しましたが、今年はレザー（合成皮革）の見本を加えデザインの裾野を広げて頂くことにしております。主催

者の加工・卸組合の経験者が素材や加工サンプルを用いて説明し、質疑応答を交えてソフト PVC の素材とその加工方法、PVC 製品の特徴などについて理解を深めて頂きます。

残念ながらセミナーに参加できない方々には問合せ窓口を通じて、主催団体企業の専門家が疑問にお答えして、ソフト PVC の理解を深めて頂きます。

是非、デザイナーの方々にソフト PVC に興味を持って頂き、日本のモノづくりの力を活かして、I want this! とする素晴らしい作品のご応募をお待ちしております。

[PVC Design Award 2014 \(VEC からのご案内\)](#)

[PVC Design Award 2014 公式サイト \(近日公開\)](#)

## ■ 随想

### ◇モザンビーク共和国旅行記（7）－教育－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

モザンビークの教育制度は、日本での小学校に相当する初等教育課程が前期 5 年、後期 2 年の合計 7 年間。ここまでが義務教育ですが、実際には経済的な理由などで初等教育課程の前期だけで終わってしまう子供も多いようです。

それ以降は日本で言う中学・高校を含んだ中等教育課程となり、前期 3 年、後期 2 年の合計 5 年間となっています。中等教育課程に進学するには全国統一試験を受け、これに合格しなければ公立学校であっても私立学校であっても入学をすることはできません。

中等教育課程への進学率は、試験の難しさだけではなく、経済的な貧困問題も重なりモザンビーク全体で 8%程度であると言われていています。このため、10 歳～13 歳で何らかの仕事に就労する子どもたちが沢山おり、このことを理解していないと「モザンビークではなんで子どもがこんなに働いているの?」と不思議に思うこととなります。

また、中等教育課程に進学を希望する生徒は比較的裕福な家庭の子どもが多いため、教育水準の高い私立学校への進学を希望する人が多いそうです。

逆に言えば、同じ中等教育課程でも公立学校は私立学校と比べるとかなり教育水準が低く、学校数も不足しているため、授業も午前部、午後部、夜間部と三部制をとっており、絶対的な授業時間も不足しているため、人気がないようです。

中等教育課程でも特に私立学校を目指している子どもの家族は教育熱心な人が多く、受験勉強も日本並みかそれ以上に厳しいものがあるそうです。数年前には、私立学校の入学試験に落ちた子どもが、将来を悲観した親に殺されてしまうという事件も起きているそうです。

モザンビークには日本の塾のようなものではなく、家庭教師を雇うのが一般的だそうです。家庭教師は勉強を見るだけでなく、学校への送迎、場合によっては住込みで子どもの生活全般も見てくれるそうです。

本当に私立の学校を目指している子どもは初等教育も私立学校に入学することが多いそうですが、学校の終業時間になると学校前には、明らかに子どもを迎えに来た家庭教師と思われる人たちが、子どもが学校から出てくるのを待っています。

家庭教師は欧米人もいますが、大部分はモザンビーク人だそうです。

モザンビーク、日本の高校に相当する中等教育課程までは試験に受かりさえすれば進学をすることはできますが、大学入学はもともと大学の数が少ないこともあり非常に狭き門

だそうです。このため、大学進学を諦め、教員養成学校、工業学校などの専門学校に進学する人も多く、これらの学校を卒業した人が職業として家庭教師になることも多いということです。この家庭教師、当然、実力主義で、あの先生に家庭教師になってもらうと子どもがいい学校に入学できるという評価をされると、大学を卒業した人以上の収入が確保できるのだとか。

このように、裕福な家庭の子どもは家庭教師により全生活を勉強のためにコントロールをされているせいなのか、夕方になって高級住宅地では子どもが遊んでいる姿は全くありません。逆に本当に貧しい人たちが住む地域でも、子どもたちは学校に行かずに働いているか、学校が終わると働いているかの何れかで、やはり遊んでいる姿は見かけません。

子どもは学校が終わると、或いは週末は外で遊ぶものだと思っていましたが、モザンビークではそれがほとんど当てはまらず、遊んでいる子どもを見つけるのが難しいほどです。

ところで、モザンビークの教育文化省の事務所、ちょっと変わった建物に入居しています。アイアン・ハウス（Casa de Ferro：鉄の家）と呼ばれる壁が全て鉄でできた建物で、1892年に当時のポルトガル総督公邸として、フランスのエッフェル塔を設計したエッフェルが設計したものだそうです。建物の中、鉄板が焼けてさぞ暑いだろうと思っていましたが、中に入るとひんやりして、なかなか快適でした。



(つづく)

次回は、(8)「経済」です。

⇒ [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

震災から早くも3年が経ちました。震災直後のパリーグの開幕戦で、楽天の選手が「日本の底力」という言葉を使い、多くの方々に勇気付けたシーンを強烈に私自身は覚えています。その「日本の底力」で着実に復興も進み、今年の4月から仮設住宅の取り壊しも始まるそうです。しかしながら、原発の問題に目を向けると、復興も道半ばという感は否めません。福島の方々の復興は、まだ始まっていないということを決して見逃さず、今後も国民全体の「日本の底力」で復興の完遂をできればと考えています。(KT)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次



■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)